

郡山女大家政 関口喜左

目的 家政を学たらしむための試みとして、O・下ボルノーの「人間とその家」の哲学的推論を起点として家の意味と人間の存在を明らかにしつゝ、第1報～第3報に至ったが、今回はさらに家政学の体系構造についての内容の検討をすゝめるものである。

方法 家政学の構造概念を基として、家族家政、社会家政及び環境保全区の関係、加えて生活科学の位置と関係に言及しつゝ、前回迄の報告内容についてのフィードバックにより目的にせまる。

結果 「家族及び個人生活に守護性と附加し、その増大をはかる行為、並びにその技術と綜合して家政学という」（第1報）の定義における守護性と家族生活、守護性と個人生活（個人の集合体も含む）及びこれら家族、個人の住む環境保全区との関係が明確化となり、外部空間の守護領域の密度を高めることにおける、家政学の使命と重要性が意味づけられた。